



**Hewlett Packard
Enterprise**

Smart Update Manager リリースノート

摘要

ここでは、このバージョンの SUM のリリース情報について説明します。このガイドは、Microsoft Windows、Windows Server、Linux、Smart コンポーネント、HP-UX、VMware の設定および操作、ならびにアップデートの実行に伴うデータ消失の危険性について理解している担当者を対象にしています。本製品は、日本国内で使用するための仕様になっており、日本国外で使用される場合は、仕様の変更を必要とすることがあります。本書に掲載されている製品情報には、日本国内で販売されていないものも含まれている場合があります。

部品番号: 869606-191

発行:

2016, 11

版数: 1

バージョン 7.6.0

ご注意

本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。Hewlett Packard Enterprise 製品およびサービスに対する保証については、当該製品およびサービスの保証規定書に記載されています。本書のいかなる内容も、新たな保証を追加するものではありません。本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、脱落に対して、責任を負いかねますのでご了承ください。

本書で取り扱っているコンピューターソフトウェアは秘密情報であり、その保有、使用、または複製には、Hewlett Packard Enterprise から使用許諾を得る必要があります。FAR 12.211 および 12.212 に従って、商業用コンピューター・ソフトウェア、コンピューター・ソフトウェア資料、および商業用製品の技術情報は、ベンダー標準の商業用ライセンスのもとで米国政府に使用許諾が付与されます。

他社の Web サイトへのリンクは、Hewlett Packard Enterprise の Web サイトの外に移動します。Hewlett Packard Enterprise は、Hewlett Packard Enterprise の Web サイト以外にある情報を管理する権限を持たず、また責任を負いません。

商標

Microsoft®および Windows®は、米国および/またはその他の国における Microsoft Corporation の登録商標または商標です。

UNIX®は、The Open Group の登録商標です。

オープンソースツール

OpenPegasus	バージョン 2.13.0 : http://www.OpenPegasus.org
Mongoose	バージョン 3.2 : http://sourceforge.net/projects/mongoose/develop
open-WSman	バージョン 2.4.12 : http://sourceforge.net/projects/openwsman

zlib	バージョン 2.4.12 : http://zlib.net
libcurl	バージョン 7.40.0 : http://curl.haxx.se/libcurl
gSOAP	バージョン 2.8.11 : http://gsoap2.sourceforge.net
libssh2	バージョン 1.4.3 : http://www.libssh2.org
libxml2	バージョン 2.9.1 : http://www.xmlsoft.org
libxslt	バージョン 1.1.28 : http://www.xmlsoft.org
OpenSSL	バージョン 1.0.1s : http://www.openssl.org
Cygwin ライブラリ	http://cygwin.com/index.html
sed.exe	バージョン 4.2.2
grep.exe	バージョン 2.5.1
strings.exe	バージョン 2.23.52.20130309
rpm.exe	バージョン 4.11.1
xorriso.exe	バージョン 1.3.4
Genisoimage	http://cdrkit.org/
json	バージョン 0.5.0
sqlite	バージョン 3.7.14.1

SUM の概要

SUM は、ProLiant と Integrity サーバー、BladeSystem エンクロージャー、Moonshot システム、および各種オプションのファームウェアとドライバーのメンテナンスツールです。ユーザーのニーズに対する柔軟性と適応性を高めるために、ブラウザベースの GUI やスクリプト可能なコマンドラインインターフェイスが用意されています。

SUM には検出エンジンが組み込まれており、取り付けられているハードウェアや、ターゲットノードで使用中のファームウェアとソフトウェアの現在のバージョンを検出します。SUM は、相互依存性の問題を回避するために、同時にアップデートできる、関連ターゲットを特定します。SUM は、アップデートを正しい順序で展開します。また、アップデートの展開前にすべての依存関係が満たされていることを確認します。SUM は、解決できないバージョンベースの依存関係を見つけた場合、展開を行いません。

SUM の主な機能は、次のとおりです。

- 相互依存性チェック
- 自動化され、正しい順番でユーザーをガイドする、ローカルホストのアップデートプロセス
- Web ブラウザーベースのモード
- カスタムベースラインと ISO を作成する機能。
- iLO 連携グループアップデートのスケラブル展開
- GUI、テキストベースのコンソール、および CLI の各モードでの、複数のリモートノードへのファームウェアとソフトウェアの同時展開
- SPP によるローカルのオフラインファームウェア展開
- SmartStart Scripting Toolkit (ProLiant G7 以前のサーバー)、Scripting Toolkit (ProLiant Gen8 以降のサーバー)、Scripting Toolkit (ProLiant Gen8 および ProLiant Gen9)、RESTful インターフェイスツール (Gen10)、iLO 仮想メディア、または PXE ブートメディアとともに使用する際のリモートオフライン展開
-

広範なログ機能を持つ GUI、対話式 CLI、または CLI スクリプト作成モード

•

ProLiant サーバーでのネットワーク管理ポート、VC Ethernet およびファイバーチャネルスイッチ、ならびに 3 Gb/6 Gb SAS BL スイッチインターコネクト経由の、OA、iLO のようなネットワークベースターゲットでのファームウェア更新のサポート

•

VC モジュールのアップデートのサポート

注記：

SUM は、コントローラーに接続されているフラッシュ式ハードディスクドライブを含め、他社製のコントローラーをサポートしません。

アップデートの推奨事項

- **推奨**

- 新しい拡張機能、機能、および軽度のバグ修正が含まれています。Hewlett Packard Enterprise は、ご都合のよいときにできるだけ早く、すべてのお客様がアップデートすることをおすすめします。

置換情報

置き換えられるバージョン：7.5.x

製品

このリリースは、以下の製品に適用されます。

- **SPP および関連する補足情報**

- 最小 SPP バージョンは 2015.06.0 です。

- **HPE Integrity バンドル**

- このバージョンの SUM は、現在リリースされているすべての HPE Integrity バンドルをサポートします。

- **HPE Moonshot Component Pack**

- 最小バージョンは HPE Moonshot Component Pack 2014.06.0 です。

サポートされるブラウザ

- Internet Explorer バージョン 9、10、11
- Edge ブラウザー：ユーザーは管理者として実行を使用して、SUM を起動する必要があります。
- Firefox バージョン 17 ESR (Linux) およびバージョン 18 (Windows) 以降
- Chrome バージョン 24 以降
- 画面解像度 1024 x 768 以上

サポートされているデバイス

このリリースをインストールすると、製品モデルで以下のデバイスがサポートされるようになります。

展開先/実行先システム	Windows ^{4,6}		Linux ^{4,6}		VMware ESXi/vSphere ⁴		HP-UX ⁵	
	ファームウェア	ソフトウェア	ファームウェア	ソフトウェア	ファームウェア	ソフトウェア	ファームウェア	ソフトウェア
Windows	対応	対応	対応	対応	対応 ¹	対応 ¹	対応 ^{2,3}	N/A
Linux	N/A	N/A	対応	対応	対応 ¹	対応 ¹	対応 ^{2,3}	N/A
オフラインの SPP	対応	N/A	対応	N/A	対応	N/A	N/A	N/A

オフライン SPP は、通常実行されているオペレーティングシステムには関係なく、サポートされているハードウェアにファームウェアをインストールすることもできます。

1. VMware ESXi 5.0 または VMware vSphere 5.1 以降 SUM 7.1.0 以降では、VMware ESXi 5.x 以降のオンラインドライバ更新をサポートします。
2. SUM は、HP-UX の I/O ファームウェアをオンラインで更新できます。
3. iLO からプラットフォームファームウェアを使用
4. サポートされている OS バージョンを稼働する ProLiant ノード
5. HP-UX を稼働する Integrity ノード

注記：

サポートされていないオペレーティングシステムはオフラインでアップデートできます。

6. SUM は、x86 Windows および Linux システム上で稼働します。SUM は、IA64 システム上では稼働しません。

オペレーティングシステム

SUM は、以下に示すオペレーティングシステムでサポートされています。SUM を実行する前提条件については、**前提条件** (24 ページ) を参照してください。

- Windows:
 - Windows Server 2008、および Windows Server 2008 R2
 - Windows Server 2012、および Windows Server 2012 R2
 - Windows Server 2016

SUM では、Windows システム上で admin\$ が有効になっている必要があります。admin\$ 共有の有効化については詳しくは、<https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/hh831453.aspx> を参照してください。

注記：

SUM は、Windows クラスタ環境をサポートしません。

管理者として実行を使用して、SUM を起動してください。

- Linux
 - Red Hat Enterprise Linux 6
 - Red Hat Enterprise Linux 7
 - SUSE Linux Enterprise Server 11
 - SUSE Linux Enterprise Server 12

Linux システムの場合は、root ユーザーとして、または sudo を使用して SUM を起動してください。

- オフライン SPP または SUM ISO

❗ 重要：

SUM は、Linux ホストから Windows ノードの追加や、Windows ノードへのコンポーネントの展開をサポートしません。

言語

- 英語
- 日本語
- 中国語 (簡体字)

拡張機能

このバージョンの SUM には、以下の強化機能があります。

- 新しく ProLiant Gen9 サーバーおよびオプションのサポートが追加されました。
-

HPE Synergy コンピュートモジュールのサポート。SUM は、HPE Synergy フレームリンクモジュールにアップデートを展開できません。HPE OneView を使用してください。

- カスタムベースラインの改善
- ノード検出の改善
- Windows Server 2016
- 再起動および展開時間の改善

修正

- SUM は、対話型 CLI モードで IPv6 ベースラインをノードに割り当てます。
- SUM は、ログがデフォルト以外のディレクトリに保存されると、すべてのログファイルを作成します。
- SUM は、IP アドレスを持つノードを追加する場合にローカルホストを追加すると、対話型 CLI モードでノードのインベントリを作成します。
- SUM は、以前の対話型 CLI モードセッションで追加されたノードのインベントリを作成します。
- SUM は、一部のネットワークインターフェイスカードを使用しているときに展開するコンポーネントを表示します。
- SUM は、CP024095.zip コンポーネントを展開します。
- SUM は、VMware ノード上に BIOS コンポーネントを強制的に展開します。

一部のハードウェアおよびファームウェアについては、それらを検出して更新する前にドライバーおよび Enablement Kit またはそのどちらかをインストールする必要がある

症状

インストールにすべてのファームウェアコンポーネントを含めるために SUM を 2 回実行することが必要になる場合があります。

原因

これは、一部のハードウェア、つまり必要なファームウェアを検出するには SUM 用のドライバーが必要であるという要件に基づくものです。ドライバーを最初にインストールし、システムを再起動した後、SUM を再度実行し、インストールにすべてのファームウェアコンポーネントを含める必要があります。

アクション

手順

1. サポートされる Windows または Linux OS の新規インストール上でオンラインアップデートを実行する場合、適切なすべてのドライバーがレビュー/展開画面に表示されますが、一部の該当するファームウェアコンポーネントが表示されない場合があります。
2. ネットワークアダプター (NIC)、ホストバスアダプター (HBA)、および iLO については、ドライバーまたは Enablement Kit をインストールしてそれらが SUM によって認識されるようにする必要があります。
3. iLO チャネルのインターフェイスドライバーがインストールされていない場合、iLO ファームウェアは、バンドルを選択ページまたはコンポーネントを選択ページ上で、インストールされたバージョンとして「CHIF が必要」のバージョンを表示し、ステータスとして「展開の準備ができました」を表示します。これは、iLO 2、3、および 4 のファームウェアに適用されます。ファームウェアのアップデートを試みても、ファームウェアがすでに最新の場合は、ファームウェアは更新されないことがあります。
4. 適切なドライバーがインストールされ、かつ、すべての Ethernet ポートが起動するまで、SUM は Broadcom NIC を検出しません。Ethernet ポートを起動するには、以下のコマンドを使用します。
5. # ifup ethX
6. または
7. # ip link set enoX up
8. Broadcom NIC 用のファームウェアを更新するには、以下の手順に従ってください。
 - a. SPP にある適切な Windows ドライバーまたは Linux ドライバーをインストールします。Linux サーバーをアップデートする場合、ドライバーは SDR または Linux ディストリビューションからも取得できます。
 - b. すべての Ethernet ポートを有効にします。
 - c. Broadcom FW アップグレードコンポーネントを実行します。

SUM 対話型 CLI でファイアウォールが開かない

症状

SUM 対話型 CLI でファイアウォールが開きません。

アクション

手順

1. コマンドラインから login コマンドを実行する前に、コマンドを実行して下さい。

BIOS コンポーネントが自動的に選択されない

症状

SUM では、古いバージョンの SUM を使用している場合、SPP の BIOS コンポーネントが選択されません。

原因

BIOS メタデータが変更されたか、SUM が情報を正しく読み取れない可能性があります。

アクション

手順

1. SPP に含まれている SUM のバージョンで、BIOS コンポーネントを展開してください。

SUM が古い Smart アレイコントローラーを検出しない

症状

SUM が古い Smart アレイコントローラーを検出せず、リターンコード 3 を表示します。

アクション

手順

- 1.

Red Hat Enterprise Linux 7.1 以降のシステムで、sg ドライバーをロードするコマンド `modprobe sg` を実行してください。sg のドライバーをロードした後、`/dev/sg` デバイスは SCSI デバイスにアクセスできます。

カスタムベースライン contents.html ファイルが正確でない

症状

カスタムベースラインに含まれている contents.html ファイルが正確ではありません。

原因

このファイルは、SUM がカスタムベースラインを作成するときに更新されません。

アクション

手順

1. 正確なベースラインコンポーネントリストのために、contents.xml ファイルを表示する。

SUM が iLO ノードファームウェアバージョンを検出しない

症状

SUM が iLO ノードファームウェアバージョンを正しく検出しません。

アクション

手順

1. 正しい iLO チャネルインターフェイスドライバーがインストールされていることを確認してください。ドライバーがインストールされていない場合、SUM レポートに iLO ファームウェアバージョンが 0 または Unknown として表示されることがあります。iLO CHIF ドライバーのインストールについて詳しくは、次のサイトにある *HPE iLO 4 ユーザーガイド* を参照してください。 <http://www.hpe.com/info/ilo/docs>

SUM に「同じユーザーによるサーバーまたは共有リソースへの複数の接続は許可されません」というエラーメッセージが表示される

症状

「同じユーザーによるサーバーまたは共有リソースへの複数の接続は許可されません」というエラーメッセージがユーザーに表示されます。

原因

SUM は、Windows ベースのサーバーで admin\$共有機能を使用し、リモートノードサーバーでファイルをコピーして必要な操作を実行します。SUM がリモート Windows ノードへの複数の接続を検出した場合は、「Multiple connections to a server or shared resource by the same user, using more than one user name, are not allowed. Disconnect all previous connections to the server or shared resource and try again.」と表示されることがあります。

アクション

手順

1. コマンドプロンプトウィンドウを開きます。
2. net use と入力します。
3. リモートノードで開いている接続が返されたら、次のように入力します。
4. net use <node_admin_share> /delete
5. エラーが表示される原因になった SUM で操作を再試行します。

SUM が予想よりも遅い

症状

SUM で機能の実行に予想よりも長い時間がかかります。

アクション

手順

1. 展開に要する時間は、システムおよびサーバーの環境変数によって異なります。Windows または Linux のいずれでも、すべての SUM モードで最大 45 のノードを更新します。ノード構成に基づいてグループ内にある更新を展開できます。詳しくは、次の SUM Information Library の Web サイトにある *HP SUM* ベストプラクティスプランニングガイドを参照してください。<http://www.hpe.com/info/sum-docs>

HPCISSS2 および HPCISSS3 ドライバーの更新

症状

どのドライバーがインストールされるのが混乱します。

アクション

手順

1. Smart アレイ SAS/SATA ドライバーを更新するときに、レビュー/展開画面で HPCISSS2 と HPCISSS3 の両方のドライバーを選択した場合は、次の表を使用して、どのドライバーがインストールされるかを確認してください。

インストールされるドライバーバージョン	CISSS2	CISSS3
HPSAMD ドライバー	このドライバーを選択した場合のみインストールされます。	両方のドライバーを選択した場合は、CISSS3 がインストールされません。
HPCISSS2 ドライバー HPCISSS3 ドライバー	インストールおよび更新されます。	インストールおよび更新されます。

一部のノードで open_firewall コマンドが動作しない

症状

一部のノード上で、SUM が起動しノードを追加しますが、ノードのインベントリを作成すると失敗します。

アクション

手順

- 一部のインスタンスで SUM がファイアウォールを開くことができません。これには、他社製ファイアウォールアプリケーション、Linux iptables DROP エントリ、および複雑なルールを持つファイアウォールが含まれます。open_firewall コマンドが動作しない場合、ファイアウォールを手動で開くと、SUM はノードを管理できます。

デフォルトでない一時ディレクトリのパスで SUM を実行していると、gather logs と clean-cache が動作しない

症状

デフォルトでない一時ディレクトリのパスで SUM を実行していると、gather logs と clean-cache が動作しません。

アクション

手順

1. gatherlogs を使用する代わりに、必要に応じてデフォルトでない temp ディレクトリを手動で zip または tar します。clean-cache を使用する代わりに、デフォルトでない temp ディレクトリを手動で消去します。

SUM ベースラインライブラリ画面の応答が停止する

症状

SUM のベースラインライブラリ画面が、ベースラインの位置が使用できなくなったときに応答を停止します。

アクション

手順

1. SUM をシャットダウンし、ベースラインの場所が使用可能なことを確認してから、SUM を再起動してください。

SUM のページが、Internet Explorer 11 で予期せず更新される

症状

SUM のページが、Internet Explorer 11 で予期せず更新される

原因

これは Microsoft Internet Explorer 11 の既知の問題です。

アクション

手順

- 1.

この問題を解決する方法については、Microsoft 社の Web ページを参照してください。<https://support.microsoft.com/ja-jp/kb/956196>

SUM を使用して、新しいノードをグループに追加したり、ノードのタイプを指定したりできない

症状

SUM を使用しても、ノードの検出ページで追加された新しいノードをグループに追加したり、ノードのタイプを指定したりできません。

溶液 1

アクション

手順

1. ノードの検出ページからノードを追加してから、**Edit Node** 画面を使用してノードグループとノードタイプを追加してください。

溶液 2

アクション

手順

1. IP アドレスをメモしてから、ノードの追加ページを使用してノードを追加してください。

SSH キーファイルと一緒にユーザーパスワードを入力すると、SUM が CLI モードで動作しない

症状

SSH キーファイルと一緒にユーザーパスワードを入力すると、SUM が CLI モードで動作しません。

アクション

手順

1. SSH キーファイル機能にユーザーパスワードは不要です。SSH キーファイルのパスフレーズを指定します。

SUM に Superdome X ノードタイプが表示されない

症状

SUM に Superdome X ノードタイプが表示されません。

アクション

手順

1. Superdome X ノードを使用した操作をするときは、Superdome 2 オプションを使用してください。

SUM が Windows Server 2012 のユーザーを追加しないことがある

症状

SUM で、管理者権限を持つ Windows Server 2012 のユーザーが追加されないことがあります。

アクション

手順

1. Microsoft Windows のレジストリを編集して、ユーザーアカウント制御を無効にしてください。

SUM に BIOS ファームウェア RPM 展開で再起動が必要と表示されない

症状

BIOS ファームウェアが再起動が必要な唯一のコンポーネントである場合は、SUM で自動的にノードが再起動されません。

アクション

手順

1. アップデートノードを手動で再起動してください。

SUM がグループの作成後にタイムアウトし、GUI をシャットダウンしてから、グループを CLI モードで展開する

症状

SUM がグループの作成後にタイムアウトし、GUI をシャットダウンしてから、グループを CLI モードで展開する

アクション

手順

1. GUI エンジンが完全にシャットダウンしたことを確認してから、CLI モードで展開してみてください。CLI コマンドを発行する前に、対話型 CLI コマンド `hpsum getenginestatus` を使用してエンジンがシャットダウンしたことを確認してください。

一部のサーバータイプがベースラインフィルターで表示されないことがある

症状

一部のサーバータイプがベースラインフィルターで表示されないことがあります。

アクション

手順

1. 処置は不要です。サーバーが SUM バージョンより後にリリースされた場合、そのサーバータイプは SUM に表示されません。また、古いバージョンの SPP を展開している場合、サーバーは表示されません。

SUM が、Linux UEFI システム上で起動できないカスタム ISO を作成することがある

症状

SUM が、Linux UEFI システム上で起動できないカスタム ISO を作成します。

アクション

手順

1. カスタム ISO を作成する前に、SUM を実行しているシステム上で xorriso をインストールしてください。これがインストールされていない場合、ISO は、Linux UEFI システム上で起動できません。Windows システム上でカスタム ISO を作成する場合、ISO は常に UEFI システム上で起動できます。

リモートシステムが別のドメインにあると、SUM がインベントリの作成に失敗する

症状

リモートシステムが別のドメインにあると、SUM がインベントリの作成に失敗します。

アクション

手順

1. SUM を実行しているローカルホスト上のユーザーアカウントに、リモートのドメインとノードの管理者権限があることを確認してください。

SUM が sudo ユーザーのシステムモデルを検出しない

症状

SUM が sudo ユーザーのシステムモデルを検出しません。

アクション

手順

1. sudo モードを実行している場合は、/usr/sbin が含まれるように sudo ユーザーのパスを編集してください。

SUM に HPE Integrity ノードのファームウェアバージョンが Unknown と表示される

症状

SUM に HPE Integrity ノードのファームウェアバージョンが Unknown と表示されます。

アクション

手順

1. Unknown の横の下向き矢印をクリックして、詳細なファームウェアバージョンを確認してください。

Linux VM ホストでネットワークが無効の場合に、SUM が機能しなくなる

症状

Linux VM ホストでネットワークが無効の場合に、SUM が機能しなくなります。

アクション

手順

1. SUM の実行中は、ネットワーク接続が安定していることを確認してください。SUM が機能しなくなった場合は、SUM を閉じ、エンジンをシャットダウンしてから、SUM を再起動してください。

SUM がコンポーネントを解凍できない

症状

SUM がコンポーネントを解凍できません。

アクション

手順

1. SUM では、Linux ユーティリティの unzip が必要です。

SUM が予想どおりに迅速にエンジンをシャットダウンしない

症状

展開が完了した後は、SUM のシャットダウンに予想以上に長い時間がかかります。

アクション

手順

1. 起動スクリプトで SUM エンジンが完全にシャットダウンしたことが示されるまで待機してから、別のコマンドを実行してください。

SUM に予想外の展開対象コンポーネントが表示される

症状

SUM には、ノードに適用されないコンポーネントが表示されます。

アクション

手順

1. コンポーネントが展開されないように手動で削除してください。

SUM の対話型 CLI モードで VC ノードにコンポーネントが展開されない

症状

対話型 CLI モードでは、FIPS モードの VC ノードにコンポーネントが展開されません。

アクション

手順

1. アップデートを展開する前に、対話型 CLI モードでインベントリの作成をノード上で実行してから、ノードの VC 暗号化キーを割り当ててください。

SUM を使用しても予想どおりにユーザーがログオフできない

症状

プロセスの実行中は、ユーザーが予想どおりにログオフできません。

アクション

手順

1. SUM がすべてのインベントリ作成および展開を終了するまで待機してから、ログオフを試みてください。

SUM がノード入力ファイルの詳細に含まれる暗号化キーを処理しない

症状

暗号化キーは、入力ファイルノードの詳細に追加されると予想どおりに処理されません。

アクション

手順

1. SUM は個々のパラメーターではなく、グローバルパラメーターとして ENCRYPTION_KEY パラメーターを処理します。別のキーが必要な場合は、複数の入力ファイルを使用してください。

SUM の CLI モードパラメーター `tpmbypass` が TPM 警告以上を回避する

症状

`tpmbypass` パラメーターを指定すると、SUM で `ignore_warnings = true` パラメーターが設定されます。

アクション

手順

1. 処置は不要です。これは、将来のバージョンで解決される予定です。

VMware ノードへの展開に予想よりも長い時間がかかる

症状

VMware ノードへの展開には予想よりも長い時間がかかり、接続がタイムアウトします。

アクション

手順

1. 予想外にノードが終了しなかったことを確認してから、展開を再試行してください。

SPP ISO に対してベースラインインベントリが応答しない

症状

SPP ISO が Gnome 仮想ファイルシステム経由でマウントされているときは、SUM インベントリを実行しても応答しません。

原因

Gnome 仮想ファイルシステムは、ファイルの読み取りおよび実行パーミッションには適用されません。

アクション

手順

1. 手動で SPP をディレクトリに抽出してから、SUM を起動してください。

前提条件

SUM の前提条件

任意のコンポーネントをシステムに展開する前に、展開手順で問題が発生した場合にシステムの最新のバックアップが利用できることを確認してください。

SUM が使用する一時ファイルを SUM が生成できるように、1 GB 以上の空きディスクスペースが存在することを確認してください。

SUM は、ホストシステムの言語設定に従って表示言語を決定します。

❗ **重要：**

SUM は、64 ビット Linux プラットフォームで動作するためには 32 ビットライブラリを必要とします。満たす必要がある依存関係はコンポーネントにも存在します。SUM は、コンポーネントの展開を試みるまで、不足しているライブラリ依存関係を認識しない場合があります。エラーコード 7 が表示される場合、64 ビット Linux オペレーティングシステム上で実行しており、必要とされる依存関係のある 32 ビットライブラリをシステムにインストールしたことを確認してください。

Windows オペレーティングシステムの依存関係

Windows オペレーティングシステムに対する SUM の前提条件

- WLDAP32.dll
- OLEAUT32.dll
- RPCRT4.dll
- KERNEL32.dll
- USER32.dll
- SHELL32.dll
- ole32.dll
- ADVAPI32.dll
- WS2_32.dll
- GDI32.dll
- NETAPI32.dll
- IPHLPAPI.DLL
- SETUPAPI.dll
- dbghelp.dll
- Secur32.dll

- MPR.dll
- VERSION.dll
- WINMM.dll
- admin\$は有効

Linux オペレーティングシステムの依存関係とユーティリティ

Linux オペレーティングシステムに対する SUM の前提条件

SUM を実行するシステムと、アップデートするノードには、以下の Linux ユーティリティをインストールする必要があります。

オペレーティングシステムの依存関係

- libcrypt.so
- libcrypt.so.1
- /usr/lib/libqtsdm.so
- /usr/lib64/libqtsdm-x86_64.so
- /lib/cim/libqtsdm.so
- /usr/lib/libemsdm.so
- /usr/lib64/libemsdm.so
- /lib/cim/libemsdm.so
- /usr/lib/bfahbaapi.so
- /usr/lib64/bfahbaapi.so
- /lib/cim/bfahbaapi.so
- linux-vdso.so.1
- /lib64/libpthread.so.0
- /lib64/libz.so.1

- /lib64/libdl.so.2
- /lib64/librt.so.1
- /usr/lib64/libstdc++.so.6
- /lib64/libm.so.6
- /lib64/libgcc_s.so.1
- /lib64/libc.so.6
- /lib64/ld-linux-x86-64.so.2

必要な Linux ユーティリティ

- coreutils
 - cut
 - ls
 - rm
 - uname
 - cat
 - chmod
 - chown
 - nohup
 - stat
 - su
 - echo
 - mkdir
 - find

- mv
- mknod
- kcmodule
- reboot
- cd
- exit
- shutdown
- df
- wc
- id
- dirname

- mkisofs - カスタム ISO イメージを作成するために必要です。
- xorriso - UEFI ノード用の ISO イメージを作成するために必要です。

- sed

- rpm

- bash

- util-linux
 - kill

 - killall

- shutdown

- module-init-toolsmod
- pciutilspci
- gawkawk
- grep
- sambantim_auth
- uuid
- procpops
- dmidecode
- ipmitool
- sudo - リモートノードの sudo 認証情報を使用するために必要です。
- model
- dirname
- sysdiscovery_linux.cpp
- nohup
- df
- GNU の開発ツール
 - strings
- ldd
- ldconfig
- rpm2cpio - RPM パッケージファイルの抽出が必要です。
- cpio - RPM パッケージファイルの抽出が必要です。

- unzip

❗ **重要:**

OA ノードを更新しようとしている場合は、SUM を実行するシステムに必要な 32 ビットライブラリがインストールされていることを確認してください。必要なコンポーネントについて詳しくは、*Service Pack for ProLiant* コンポーネントノートを参照してください。

HP-UX オペレーティングシステムの依存関係

HP-UX オペレーティングシステムに対する SUM の前提条件

- /usr/bin/swlist
- /usr/bin/swinstall

VMware リモートホストファームウェアの更新

VMware ノードに対する SUM の前提条件です。

SUM は VMware 上では動作しません。Linux または Windows システム上で SUM を稼働している場合、VMware ESXi 5.0 または VMware vSphere 5.1 以降のオペレーティングシステムを実行するサーバーをリモートで更新できます。SUM は、VMware ノード用のファームウェアおよびドライバーの更新をサポートします。

SPP には、最新リリースのファームウェアが含まれます。VMware ESXi 5.0 または VMware vSphere 5.1 以降を実行する ProLiant サーバー用の推奨ドライバーおよびファームウェアバージョンについては、Hewlett Packard Enterprise のオンラインデポ <http://vibsdepot.hpe.com/> (英語) から入手できる VMware のファームウェアおよびソフトウェアレシピを参照してください。SPP で入手できるファームウェアアップデートについては、*Service Pack for ProLiant* リリースノートを参照してください。SPP 2014.09.0 以降のリリースには、Hewlett Packard Enterprise カスタムイメージに含まれる Hewlett Packard Enterprise および他社製のドライバーが含まれています。

Linux または Windows システム上で SUM を稼働している場合、VMware ESXi 5.0 または VMware vSphere 5.1 以降のオペレーティングシステムを実行するサーバーをリモートで更新できます。SUM をローカルで実行して、VMware ESXi または VMware vSphere ノードを更新することはできません。VMware vSphere ノードをアップデートするには、以下を満たす必要があります。

- オンラインモードのノードを更新するには、完全な WBEM プロバイダーをインストールする必要がある。WBEM プロバイダーをインストールしなくても、ブート可能な ISO からオフラインモードでノードを更新できます。オフラインモードでドライバーを展開することはできません。
- ノードは VMware ESXi 5.0 または VMware vSphere 5.1 以降を実行している必要がある。
- ノードは SUM が検出できるように、ネットワーク上でアクティブになっている必要がある。

- VMware サーバーが hp-smx-provider-500.03.01.2-434156 以降を実行している。以下のいずれかの場所から、VMware vSphere リリースの該当するバージョン用のプロバイダーをダウンロードしてください。
 - HPE Insight Management WBEM Provider オフラインバンドルのバージョン 1.3.5 以降。バンドルは、Hewlett Packard Enterprise のオンラインデポ <http://vibsdepot.hpe.com/>（英語）からダウンロードできます。
 - バージョン 5.25 以降の Hewlett Packard Enterprise カスタムイメージには、プロバイダーが含まれます。Hewlett Packard Enterprise カスタムイメージ ISO は、Custom VMware Image for ProLiant Servers の Web サイト <http://www.hpe.com/info/esxidownload>（英語）からダウンロードできます。
- Windows または Linux ホストコンピューターで SUM を実行している。

注記：

SUM をローカルで実行して、VMware ESXi または VMware vSphere ノードを更新することはできません。

リモートノードでの Linux と HP-UX の root 認証情報の使用

Linux/HP-UX の root ユーザーとして実行するように SUM を設定します。

手順

1. root 認証情報を提供するか、sudo 権限のあるユーザーを提供するか、リモートノードで root 以外の認証情報と root 認証情報を提供することができます。

Linux および HP-UX の sudo 認証情報を使用するための前提条件

Linux/HP-UX の root ユーザーとして実行するように SUM を設定します。

手順

1. 次のいずれかを指定します。
 - a. ユーザー名とパスワード
 - b. ユーザー名と SSH キーのファイルパス（PEM 形式）
2. sudo ユーザーの場合、
/etc/sudoers
ファイルにユーザーを追加します。以下に、各ユーザーの権限とファイルでの指定を示します。

a. ユーザー :

root

権限 :

ALL= (ALL)

指定 :

ALL

b. ユーザー :

Sudo_user

権限 :

ALL

指定 :

ALL

3. sudo コマンドの実行時にシステムが root ユーザーのパスワードではなく sudo ユーザーのパスワードを求めように、

/etc/sudoers

ファイルのエントリーを編集します。

4. 以下に、

/etc/sudoers

でコメントする権限、または削除する権限を示します。[参照 : サブステップ](#)



警告 :

このオプションは、必ず、SuSE Linux Enterprise システムで

Defaults targetpw

を指定して使用してください。

a. ユーザー :

ALL

権限 :

ALL

指定 :

ALL

5. スーパーユーザーの機能を使用するには、ユーザーをすべての root 特権を持つスーパーユーザーとして構成します。また、root ユーザーとともに root 以外のユーザーを使用してコンポーネントをアップデートすることもできます。

6. sudo と組み合わせてログイン認証情報の SSH キーを使用する場合は、システムがユーザーのパスワードを求めないように、次のように

/etc/sudoers

ファイルのエントリーを編集します。

- a. ユーザー :

sudo_user

権限 :

ALL

指定 :

NOPASSWD: ALL

root 認証情報での SSH キーファイルの使用

SSH を使用した、Linux/HP-UX の root ユーザーとして SUM を実行する設定。

SUM では、パスワードを使用するか、SSH キーを指定することでログインできます。

手順

1. SUM を実行しているノードで、ssh keygen-t rsa と入力します。SUM は、DSA 暗号化キー形式もサポートします。DSA 暗号化キーを作成するには、ssh -keygen -t dsa と入力します。パスフレーズはオプションです。

2. .ssh/id_rsa.pub ディレクトリ内にキーを保存します。root ユーザーの場合は、/root/.ssh ディレクトリを使用します。

3. キーを開き、次のテキストがあるかキーの最上部を調べて、プライベートキーが PEM 形式であることを確認します。

```
----- BEGIN RSA PRIVATE KEY -----
```

- 4.

必要に応じて、更新したいノードで、ルートレベルに、ssh ディレクトリを作成します。ディレクトリでの権限レベルを 700 に設定します。

5. 更新したいノードにファイル名、ssh/authorized_keys があるかどうかを確認します。このファイルが存在しない場合は、このファイルを作成または追加します。authorized_keys ファイルに対する権限を 640 に設定します。

注記：

ファイルを追加すれば、より多くのユーザーがプライベートキーの使用を承認されます。

6. ホストノード上の、ssh/id_rsa.pub の内容をコピーし、リモートノード上のファイル名、ssh/authorized_keys 内に貼り付けます。
7. ホストノードと、更新するノードの間の SSH パスを開きます。
 - a. ssh root@10.0.0.1 と入力します。このパラメーターにより、シェルのパスが開きます。
 - b. ssh root@10.0.0.1 uname と入力します。このパラメーターにより、コマンドが実行され結果が戻されます。
8. SUM には、id_rsa (プライベートキーファイル) へのアクセスと、オプションのパスフレーズが必要です。

注記：

その他のアプリケーションで PEM 形式のパブリックキーが必要な場合は、ssh keygen-e-f id_rsa.pub > id_rsa_pub.pem と入力して変換できます。キーを開き、---BEGIN SSH2 PUBLIC KEY---がある PEM 形式であることを確認します。

Windows システムでプライベートキーを作成するには、PuTTY や PuTTY Key Generator (PuTTYGen) などのアプリケーションを使用します。詳しくは、<https://www.digitalocean.com/community/tutorials/how-to-create-ssh-keys-with-putty-to-connect-to-a-vps> を参照してください。

ファイルを PEM 形式にエクスポートするには、**Conversion > Export OpenSSH key** を選択します。

使用される SUM のネットワークポート

このモジュールは、SUMに必要なポートを説明します。

SUMでは、特定のネットワークポートが使用可能である必要があります。ネットワークポートをロックダウンする場合は、ネットワークポートテーブルにリストされているポートが開いていてSUMがリモートのノードサーバーやホストに接続する際に正しく機能するかどうかを確認してください。これらのネットワークポートのロックを解除できない場合は、SUMをローカルで実行し、ネットワークベースのホストをそのWebインターフェイス経由でアップデートする必要があります（OA、iLO、VCモジュールなど）。

注記：

SUMで、必要なファイアウォールポートをローカルホストおよびリモートサーバーで自動的に開くには、`open_firewall` パラメーターを使用します。

ほとんどのノードタイプのアップデートには、SUMを実行するサーバーとノード間の双方向のネットワークトラフィックが必要です。SUMを実行するサーバーはローカルHTTPサーバーを作成します。このサーバーはファームウェアバイナリをノードに提供したりノードのステータスを通知したりするために使用されます。リモートノードはHTTP要求を発行し、アップデートプロセスの実行中に、SUMを実行しているサーバーにステータスの更新をポストします。ルーティングの問題が発生する場合、またはリモートノードからSUMを実行しているシステムに戻るトラフィックをファイアウォールがブロックする場合は、ファームウェアのアップデートのブロック、ステータス更新のブロックまたは遅延、あるいはその両方が発生している可能性があります。

SUMトラフィックは、初期通信の作成によって使用できるポートのいずれかにバインドされた後、専用の大きいポート番号（1024より大きい番号）に移すことができます。こうすることで、最初のポートを解放して新しい要求で使用できます。

SUMを実行中のシステム	ターゲットのノードタイプ	インベントリフェーズ			展開フェーズ		
		ターゲットへ	ターゲットから（SUM 7.2.1 以前）	ターゲットから（SUM 7.3.0 以降）	ターゲットへ	ターゲットから（SUM 7.2.1 以前）	ターゲットから（SUM 7.3.0 以降）
Windows	Windows	445、135、137、138、139	63001、63002	なし	445、135、137、138、139	63001、63002	なし

表は続く

SUM を実行中のシステム	ターゲットのノードタイプ	インベントリフェーズ			展開フェーズ		
		22	63001、63002	なし	22	63001、63002	なし
Windows または Linux	Linux	22	63001、63002	なし	22	63001、63002	なし
Windows または Linux	HP-UX	22、63002	63001、63002	63001、63002	22	63001、63002	63001、63002
Windows または Linux	VMware	443、5989	63001、63002	63001、63002	443、5989	63001、63002	63001、63002
Windows または Linux	OA	22、(80)、443	なし	なし	22、(80)、443	なし	なし
Windows または Linux	iLO、VC、FC スイッチ、SAS スイッチ、Moonshot、Superdome 2/X	22、(80)、443	VC コンポーネント: 63001、63002	なし	22、(80)、443	63001、63002	63001、63002

SUM は、Windows および Linux の両方のシステムで、ポート 63002 を使用して hpsum_binary アプリケーションおよび hpsum_service アプリケーションの間で通信します。ポートが両方の列に表示されている場合、双方向通信が行われます。

注記：

Windows から Windows へのトラフィックでは、WMI、つまり標準の DCOM-In ポート 135、Async-in、および WMI-in を使用します。

ファイアウォールの競合がある場合は、/port コマンドと/ssl_port コマンドを発行し、ポートを 63001 および 63002 から変更します。--open_firewall を使用して、SUM が外部アクセスに使用する HTTP および HTTPS ポートを開きます。リモートノード機能やリモートブラウザアクセスを実行するには、これらのポートを開きます。例：

```
hpsum /port 80 /ssl_port 443
```

/ftp_port コマンドを発行し、FTP サービスで使用するポートを割り当てることができます。デフォルトでは、FTP ポートは無効です。コマンドを使用して、サービスを有効にします。

hpsum.ini ファイル内のポートアドレスの変更

hpsum.ini ファイルを編集するか、/port または/ssl_port の CLI パラメーターを使用することによって、SUM が使用するネットワークポートを変更することができます。SUM CLI モードの使用については、*Smart Update Manager CLI ガイド*を参照してください。

次に、よく使われる代替ネットワークポートを示します。

手順

1. port=63001 を編集して、port=80 に変更。
2. ssl_port=63002 を編集して、ssl_port=443 に変更。

VMware ノード用の SUM ポートの有効化

VMware サーバーのデフォルト設定では、ポート 80、443、5989 を除いて、送信接続はブロックされます。以下の手順に従って、デフォルトポートの 63001 および 63002 を有効にします。VMware サーバー上でこれらの送信ポートを有効にしてください。

- ポート 63001 を介した送信接続を有効にする HTTP SUM ファイアウォールルールを作成します。
- /etc/vmware/firewall ディレクトリに、httpSUM.xml ファイルを作成します。ファイルに、以下を書き込みます。
- ```
/etc/vmware/firewall # cat httpHPSUM.xml
```

- <!-- Firewall configuration information for FDM -->
- <ConfigRoot>
- <service id='0000'>
- <id>httpHPSUM</id>
- <rule id='0000'>
- <direction>outbound</direction>
- <protocol>tcp</protocol>
- <porttype>dst</porttype>
- <port>63001</port>
- </rule>
- <enabled>true</enabled>
- <required>false</required>
- </service>
-

</ConfigRoot>

- esxcli network firewall refresh コマンドを使用して、更新を行います。
- ポート 63002 について、上記の手順を繰り返します。

## HPE Integrity サーバー固有のネットワーク設定に関する注記

Integrity サーバーは管理ネットワークインターフェイスと実際の作業に使うインターフェイスを備えています。この 2 つのインターフェイスは、通常は、設置される 1 つのシステム内の別々のサブネットで維持されます。サーバーの完全なリモート管理を行うために、両方のネットワークがアクセスを必要とします。2 つのネットワークを隔離したままにする場合は、管理作業とオペレーティングシステムの作業を別々に行います。

## コンポーネントの依存関係

アップデートコンポーネントに対する SUM の前提条件。

SUM は、コンポーネントの展開を試行するまで、ライブラリの依存関係が欠けていることを認識しない場合があります。コンポーネントのログファイルに Return Code = 7 エラーが含まれる場合、64 ビット Linux オペレーティングシステム上で実行しており、システムに必須の、依存関係のある 32 ビットライブラリが存在しないことを意味します。

## iLO チャネルインターフェイスドライバー

iLO インターフェイスドライバーに対する SUM の要件。

SUM が iLO ノードのファームウェアバージョンを判別できるようにするためには、iLO CHIF ドライバーをインストールする必要があります。詳しくは、次の場所にある *iLO 4 ユーザーガイド* を参照してください。

<http://www.hpe.com/info/ilo/docs>

## インストール手順

SUM は、各 SPP、Integrity 更新バンドルとともに、またはスタンドアロンの ISO として提供されます。SUM はインストールを必要としません。必要なのは、サポートされているサーバーに SUM をダウンロードして、起動することだけです。SUM の最新バージョンは、SUM のダウンロード用 Web サイト <http://www.hpe.com/jp/info/hpsum-download> からダウンロードできます。

## ダウンロードに含まれている SUM ファイル

SUM のダウンロード方法。

SUM は Hewlett Packard Enterprise Web サイトまたは Software Delivery Repository からスタンドアロンのアプリケーションとしてダウンロードできます。スタンドアロンアプリケーションには、ご使用の環境用のアップ

データは含まれていません。更新コンポーネントは、SPP、SPP カスタムダウンロード、Integrity Firmware パッケージ、または SDR から入手できます。

SUM のダウンロードには、以下が含まれています。

#### hpsum

SUM は、GUI、対話式 CLI、CLI、または Linux RPM モードで実行されます。デフォルトでは、SUM は GUI バージョンで開きます。hpsum /s と入力すると、SUM は CLI モードで動作します。hpsum といずれかの対話式 CLI コマンドを入力すると、SUM は対話式 CLI モードで開きます。

#### clean-cache

SUM に関連付けられている一時ディレクトリのファイルのうち、ノードとベースラインに関するキャッシュ済み情報を含むファイルを削除します。ログは引き続き維持されます。

#### gather logs

SUM のすべてのログを収集します。SUM のトラブルシューティングの問題をデバッグする場合にログが役立ちます。

#### hpsum\_migration

ノードデータを SUM の以前のバージョンから SUM の現在のバージョンに移行します。

#### port-targets

ノードの場所と名前を SUM 5.x から SUM の現在のバージョンに移行します。

仕様と前提条件は、<http://www.hpe.com/support/sum-rn-ja> で入手できる *Smart Update Manager* リリースノートで確認できます。

## Hewlett Packard Enterprise Web サイトからの SUM のダウンロード

Hewlett Packard Enterprise Web サイトから SUM をダウンロードする方法

### 手順

1. Web ブラウザーを起動します。
2. <http://www.hpe.com/servers/sum-download> にアクセスします。
3. ダウンロードするファイルをクリックします。
  - a. **HP Smart Update Manager**
    - ISO には、SUM とブート可能な ISO 環境が含まれています。ファームウェアコンポーネントとソフトウェアコンポーネントを追加して、カスタムベースラインを作成できます。



## b. HP Smart Update Manager RPM

- RPM は、Linux 用のネイティブパッケージです。Software Delivery Repository (<http://www.hpe.com/support/SDR-SUM> (英語)) から入手できます。

## c. HP Smart Update Manager zip

- zip ファイルには、サポートされている Windows および Linux オペレーティングシステムで SUM を稼働するために必要なファイルが収められています。

# SDR Web サイトからの SUM のダウンロード

SDR サイトから SUM をダウンロードする方法

SUM は、RPM として Software Delivery Repository (<http://www.hpe.com/support/SDR-SUM> (英語)) からダウンロードできます。SDR には、サポートされるオペレーティングシステムとアーキテクチャタイプごとに 1 つの SUM RPM バージョンがあります。yum または zypper 構成のセットアップ方法については、SDR の Web サイトを参照してください。

yum コマンドを使用して SUM を検索し、システムにダウンロードできます。また、Web ブラウザーを使用して SDR 内を移動し、rpm をダウンロードすることもできます。

SDR から SUM を検索、ダウンロード、またはインストールするには、以下のコマンドを使用します。

`yum search hpsum`

yum を使用して SUM を検索する

`yum install hpsum`

yum を使用して SUM をインストールする

`rpm -Uvh hpsum-6.0.1-14.rhel-6.x86_64.rpm` Web ブラウザーを使用して SDR から SUM をダウンロードし、RPM をインストールする

SDR の使用方法について詳しくは、Software Delivery Repository の Web サイト (<http://www.hpe.com/support/SDR-SUM> (英語)) にある「Getting Started」と「FAQ」を参照してください。

SDR での SUM の使用について詳しくは、<http://www.hpe.com/info/sum-docs> で Linux のベストプラクティスに関するドキュメントを参照してください。

## SUM の起動

SUM をスタンドアロンアプリケーションとしてダウンロードした場合、ISO、zip、RPM にはソフトウェア、ドライバ、ファームウェアのコンポーネントは含まれません。コンポーネントは <http://www.hpe.com/jp> からダウンロードできます。SUM を SPP または Integrity バンドルリリースの一部としてダウンロードした場合、コンポーネントの更新が含まれます。

iLO 仮想メディアなど、マウントされた ISO から SUM を起動する場合、SUM は、%temp%\localhpsum (Windows の場合) ディレクトリまたは/tmp/localhpsum (Linux の場合) ディレクトリを作成します。clean-cache コマンドでこれらのファイルは消去されないため、一時的なファイル localhpsum は手動で削除する必要があります。SUM は、指定されたドライブにファイルをコピーすることを示すメッセージを表示します。ファイル共有ディレクトリで SUM を実行した場合、SUM はファイルをコピーする必要はありません。

Windows 2012 以降 システムをドメインに追加し、ドメイン管理者グループのユーザーを使用します。

---

### ❗ 重要:

複数のユーザーが SUM へ同時にログインすることはできません。更新しているすべてのノードに対して、すべてのユーザーが管理者権限（あるいは同等の権限）を持っていることが必要です。

---

## 手順

### 1. GUI モード

: SUM を保存したディレクトリに移動します。コマンド

hpsum.bat

(Windows) または

hpsum.sh

(Linux) を入力し、GUI を起動します。

### 2. テキスト ベースのコンソール モード (対話式 CLI)

: SUM を保存したディレクトリに移動します。

コマンドラインから、hpsum およびコンソールパラメーターを入力します。

パラメーターの完全なリストを表示するには、

hpsum -h

(Linux) または

hpsum /h

(Windows) を入力してください。

### 3. CLI モードと入力ファイルモード

: SUM を保存したディレクトリに移動します。パラメーターの完全なリストを表示するには、

hpsum /s /h

(Windows) または

hpsum -s -h

(Linux) を入力してください。CLI モードでの SUM の使用について詳しくは、次のガイドを参照してください。

*Smart Update Manager CLI ガイド*

## ISO から GUI モードで SUM を起動する

Windows または Linux オペレーティングシステム上で SUM を実行します。

### 手順

1. ISO からローカルホストにファイルをコピーします。
2. ISO を含むディレクトリから `launch_hpsum.bat` (Windows) または `launch_hpsum.sh` (Linux) を実行します。

---

#### 注記:

Gnome 仮想ファイル システムを使用する場合は、手動で ISO を抽出し、ディレクトリに保存します。その後で、SUM を起動します。

---

### SUM と SPP ブート環境の変更

(SUM 6.2.0 ISO および SPP 2014.02.0 ISO 以降) HPE USB Key Utility では単一のデバイスでのマルチブート設定がサポートされなくなりました。SUM および SPP ISO には、UEFI ブートローダーで動作するために署名された部分が含まれています。この変更により、USB キーなどの単一のデバイス上でのマルチブート設定ができなくなりました。

## オンラインモードまたはオフラインモードでの SUM の実行

### 手順

#### 1. オンラインモード

通常のサーバー環境でホストプロセッサが動作している状態で、インストールが行われます。サーバーで Microsoft Windows Server 2012 が実行され、その環境でアップデートが行われる場合などが該当します。ファームウェアのアップデートのためにサーバーを起動して特別な環境に入れる必要はありません。ただし、ファームウェアをアクティブにするために、ノードを再起動しなければならない場合があります。

#### 2. オフラインモード

オフラインモードでは、SUM は、小さな SUSE Linux Enterprise Server 12 起動カーネルを起動し、単一のサーバーで更新できるようにします。

- ローカルシステムの更新のみ
- 単一ベースラインのみ使用

オフラインモードでは、通常のローカルホストのオペレーティングシステムを必要とする一部の機能はサポートされません。

## 更新を含む ISO からのオフライン対話式モードまたは自動モードでの SUM の実行

ISO にアップデートが含まれる場合、ISO を DVD または USB キーにコピーできます。DVD または USB キーから、オフライン対話式モードまたは自動モードで SUM を実行できます。

## 手順

### 1. 自動モード

—ファームウェアコンポーネントがユーザーの操作なしで更新されます。自動モードを起動するには、次の操作を行います。

- a. DVD または USB キーをサーバーに取り付けて、DVD または USB キーからサーバーを起動します。
- b. SUM は、その後すぐにアップデートを開始して展開します。

### 2. 対話式オフラインモード

—GUI モードを使用して更新を展開できます。オフライン対話式モードを起動するには、次の操作を行います。

- a. DVD または USB キーをサーバーに取り付けて、DVD または USB キーからサーバーを起動します。
- b. オフライン対話式モードで SUM を起動するためのキーを押します。

## RPM からの SUM の起動

### 手順

1. SUM パスで、hpsum と入力します。

## PXE サーバーを使用した更新のインストール

以下に手順に従って、Linux システム上に PXE サーバーをセットアップします。

### 手順

1. 次のパッケージをインストールします。
  - a. tftp-server
  
  - b. dhcp
  
  - c. httpd
  
  - d. syslinux
2. ネットワーク上に DNS サーバーをセットアップします。DNS サーバーをセットアップすることは必須ではありませんが、推奨されます。
3. XINETD 内部で TFTP をアクティブにします。
  - a. 変更  
disable=yes  
を  
disable=no

が  
/ect/xinet.d/tftp

**b. 再起動**  
XINETD

**4. PXE サーバーを静的 IP を使用するようにセットアップします。**

- a. /ect/sysconfig/network-scripts/ifcfg-eth0.static ファイルを作成します。
- b. ファイルに次の内容を設定します。

```
DEVICE=eth0
BOOTPROTO=STATIC
ONBOOT=no
TYPE=Ethernet
IPADDR=<IP>
NETMASK=<IPMASK>
GATEWAY=<GATEWAYIP>
```

**5. 次のように操作して、PXE ブート環境をセットアップします。**

- a. SPP ISO の/system ディレクトリから initrd.img および vmlinuz を PXE システムの/tftpboot ディレクトリにコピーします。
- b. pxelinux.0 (PXE ブート Linux カーネル) を/tftpboot ディレクトリにコピーします。
- c. /tftpboot にコピーされたファイルのパーミッションが world readable であることを確認します。

**6. PXELINUX を構成します。**

- a. /tftpboot/pxelinux.cfg ディレクトリを作成します。
- b. /tftpboot/pxelinux.cfg ディレクトリに、静的 IP アドレスの 16 進値を表すファイルを作成します。たとえば、使用される静的 IP アドレスが 192.168.0.254 の場合、16 進値は C0A800FE で、作成すべきファイルは次のようになります。

- C
- C0
- C0A
- C0A8
- C0A80
- C0A800
- C0A800F
- C0A800FE

- c. ブート PXE ブートクライアントの NIC の MAC アドレスを表す容量ゼロのファイルを、/tftpboot/pxelinux.cfg ディレクトリに touch コマンドを使用して作成します (先頭に「01」を付け、「:」の代わりに「-」を使用)。たとえば、NIC の MAC アドレスが 00:01:02:03:04:05 だとすると、ファイル名は 01-00-01-02-03-04-05 になります。

**7. デフォルト pxelinux 構成を作成します。**

- a. /tftpboot/pxelinux.cfg ディレクトリに default という名前のファイルを作成します。
- b. default ファイルの内容を次のように設定します。

```
prompt 1
default Linux
timeout 100
label Linux
kernel vmlinux
append initrd=initrd.img ramdisk_size=9216 noapic acpi=off
```

8. SPP ISO の内容全体を/tftpboot/SPP\*という名前のディレクトリにコピーします。ここで、「\*」は SPP のバージョンを意味します。
9. 次の内容を/etc/httpd/conf/httpd.conf に追加します。ここで「\*」は SPP のバージョンを意味します。
10. <Directory /tftpboot/SPP\*>
11. Options Indexes
12. AllowOverride None
13. </Directory>
14. Alias /linux /tftpboot/SPP\*
15. dhcpd および apache サービスを開始して、tftp をアクティブにします。
16. service dhcpd start
17. service xinetd restart
18. service httpd start
19. サーバーを PXE 経由でブートして、更新プロセスを開始します。

## HPE Firmware Pack for ProLiant

Python スクリプトによる更新では、Firmware Pack for ProLiant リポジトリへのアクセスが必要です。リポジトリのセットアップについて詳しくは、<http://www.hpe.com/support/SDR-FWPP> (英語) を参照してください。

- hpsum requires** コンポーネントに現在インストールされている PCI デバイスがリスト表示されます。
- hpsum list** コンポーネントに現在インストールされているファームウェアが表示されます。
- hpsum upgrade** ファームウェアパッケージのフラッシュエンジンが起動します。
- hpsum info** インストールされているファームウェアの詳細な説明です。

Firmware Pack for ProLiant リポジトリをセットアップしたら、次の手順でファームウェア RPM をダウンロードしてインストールしてください。

- Yum install \$(hpsum requires)
- 該当する RPM をインストールするよう指示されたら、Y を押してください。
- RPM がインストールされた後で、次のように入力します。
- hpsum upgrade
- コンポーネントのファームウェア更新のフラッシュを開始するよう指示されたら、Y を押してください。

## 環境内の SUM アップデートのスケーリング

SUM で更新するノードの最大数。

SUM は、すべての SUM モードで一度に最大 50 ノードの展開をサポートします。展開に要する時間は、システムおよびサーバーの環境変数によって異なります。

---

**注記：**

VMware ノードのアップデートは、一度に最大 10 までにしてください。

---

**iLO 連携グループのオフラインでの更新**

複数の iLO 連携グループをオフラインで更新する場合、複数のグループが同時に ISO にアクセスすると、展開が失敗することがあります。アップデートが失敗した場合は、アップデートされなかったグループの展開を繰り返します。ネットワークリソースへの影響を最小限に抑えるため、同時にアップデートするグループの数を少なくします。

## 旧バージョンから最新バージョンへのノードの移行

SUM の以前のバージョンに追加したノードをこのバージョンの SUM で使用するには、それらのノードの移行が必要です。スクリプト `hpsum_migration` を使用して、いつでも移行を実行できます。

**手順**

1. SUM ディレクトリから、`hpsum_migration.bat` (Windows) または `hpsum_migration.sh` (Linux) を起動します。
2. SUM は、検出した以前のバージョンの SUM のリストを表示します。最新バージョンに移行するバージョンを選択します。

SUM は、以前のバージョンの SUM で入力されたノードのアドレスと名前を移行します。

## 関連情報

SUM の最新のドキュメントについては、HP Smart Update Manager Information Library の Web サイト <http://www.hpe.com/info/hpsum/documentation> を参照してください。使用可能なドキュメントは以下のとおりです。

- *HP Smart Update Manager ユーザーガイド*
- *HP Smart Update Manager リリースノート*
- *HP Smart Update Manager CLI ガイド*

GUI で HP Smart Update Manager オンラインヘルプを開くには、アプリケーションの右上隅にある ? をクリックします。

CLI オプションの使い方に関するヘルプは、*HP Smart Update Manager ユーザーガイド* の **GUI 外でのコマンド実行** を参照してください。SUM を保存したディレクトリで `hpsum /h /s` (CLI モード) または `hpsum /h` (対話型 CLI モード) と入力することもできます。

## ドキュメントに関するご意見、ご指摘

このモジュールは、ドキュメント共通のフィードバック関連テキストです。

Hewlett Packard Enterprise では、お客様により良いドキュメントを提供するように努めています。ドキュメントを改善するために役立てさせていただきますので、誤り、提案、コメントなどがございましたら、ドキュメントフィードバック担当 ([docsfeedback@hpe.com](mailto:docsfeedback@hpe.com)) へお寄せください。この電子メールには、ドキュメントのタイトル、部品番号、版数、およびドキュメントの表紙に記載されている刊行日をご記載ください。オンラインヘルプの内容に関するフィードバックの場合は、製品名、製品のバージョン、ヘルプの版数、およびご利用規約ページに記載されている刊行日もお知らせください。